

科目名	病態生理			分野・必選別・単位数	共通科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 関順彦(医・内科) 病院教授 渡邊清高(医・内科) 講師 市川靖子(医・内科) 講師 太田修二(医・内科) 助教 本田健(医・内科) 助教 丹澤盛(医・内科)					科目ナンバー	T2A111
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要	がん関連疾患を例に、疫学、病理、病態生理、診断、最近の治療法について学び、臨床判断とがん看護実践の基盤となる知識を習得する。増加する高齢がん患者、就労世代や小児のがん患者に対する療養支援に関して、チーム医療体制、地域における連携体制などをどのように発展させるのか、医療プロフェッショナルとして真摯に取り組む意義は大きい。授業では、臓器横断的ながんの知識のみならず、がん医療の社会的な視点も含めた内容について討議を重ね、相互に認識を深化させ高める授業としたい。						
授業の到達目標	病態生理のとらえ方・考え方について、全身疾患としてのがんを例に学習する。身体的、精神的な治療方法のみならず、がん患者に必要な社会的支援などについて広く学び、臨床腫瘍学を通して、医学としての病態生理に迫る。疫学、病理、病態生理、診断、最近の治療法について説明でき、看護の実践に向けて必要な病態生理情報を自ら収集し概説できることを目標とする。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	関 順彦	教授	分子病態生理学の考え方 がん、生活習慣病、膠原病などにおける分子病態学的アプローチについて概説できる。			
	2	渡邊 清高	病院教授	がんにおける地域連携 高齢者医療のあり方 病態に応じた通院治療と療養生活を支える看護について概説できる。			
	3	市川 靖子	講師	病態生理に基づくがん薬物療法の考え方 がんの薬物療法に関して概説できる。進歩の著しい抗がん剤の作用メカニズムや効果について説明できる。			
	4	太田 修二	講師	がんの救急医療(オンコロジカル エマージェンシー) 病態生理から見たがん救急医療と緊急治療の考え方を概説できる。			
	5	本田 健	助教	がんの病態生理と症候学の考え方 がんに伴う症状、検査所見、画像所見について説明できる。			
	6	丹澤 盛	助教	がん支持療法、治療関連副作用の病態生理に応じた対策の考え方 がんの支持療法について概説できる。副作用対策について説明できる。			
	7	関 順彦	教授	演習 症状と病態に関する診断アプローチ、症例の病態に応じた治療法の考え方 帝京がんセミナー、大学院講義、キャンサーボードなどへの参加。看護計画や方針について評価することができる。(詳細は事前面談のうえ決定する)			
	8	関 順彦	教授	演習 症例の病態に応じた看護方針 帝京がんセミナー、大学院講義、キャンサーボードなどへの参加。看護計画や方針について評価することができる。(詳細は事前面談のうえ決定する)			
	9	関 順彦	教授	演習 症例の病態に応じた看護方針 帝京がんセミナー、大学院講義、キャンサーボードなどへの参加。看護計画や方針について評価することができる。(詳細は事前面談のうえ決定する)			
	10	渡邊 清高	病院教授	演習 症例の病態に応じた療養方針 帝京がんセミナー、大学院講義、キャンサーボードなどへの参加。療養計画や方針について評価することができる。(詳細は事前面談のうえ決定する)			
	11	渡邊 清高	病院教授	演習 症例における地域医療連携の具体化を考える 帝京がんセミナー、大学院講義、キャンサーボード、地域カンファレンスなどへの参加。看護計画や方針について評価。(詳細は事前面談のうえ決定する)			
	12	渡邊 清高	病院教授	演習 医療上の倫理と安全管理などに関する考え方 帝京がんセミナー、大学院講義、キャンサーボード、関連会議などへの参加。(詳細は事前面談のうえ決定する)			
	13	担当教員全員		学生による研究発表 研究テーマのプレゼンテーションと討議			
	14	担当教員全員		学生による研究発表 研究テーマのプレゼンテーションと討議			
15	担当教員全員		学生による研究発表 研究テーマのプレゼンテーションと討議				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	随時指示されるテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。授業は少人数の対話形式で行う。次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、参考書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	特に指定しないが、病態生理、がん看護に関するテキストやカンファレンス資料などを随時紹介する。						
参考書	病態生理学第2版 田中越郎 医学書院(2016年) がん看護学第2版 小松浩子ら 医学書院(2017年) がん看護(月刊) 南江堂 国立がん研究センターがん情報サービス http://ganjoho.jp/ など。随時紹介する。						
成績評価の方法および基準	テーマに関する討議参加状況(70%)および研究発表(30%)で評価する。なお欠席遅刻早退は減点対象(正当な理由がない場合、欠席1回につき5点を減点する、遅刻早退は2回で1回欠席とみなす)となる。						
その他履修上の注意事項	大学院医学研究科のがん専門医養成コースの履修可 評価割合については、開講時、提示する。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						